

議案第 1 2 号

高松市学校結核対策審議会委員の 委嘱について

教育局保健体育課

1 委員の委嘱について

(提案理由)

学校長の代表の変更に伴い、高松市学校結核対策審議会条例第3条第2項の規定により、高松市学校結核対策審議会委員を次のとおり解嘱・委嘱するものです。

(1) 委嘱年月日

令和8年5月1日

(2) 任期

令和8年5月1日から令和9年4月30日まで

(3) 委員

選出区分	氏名	役職等	備考
結核医療に関し専門的知識を有する医師	大西 隆行	大西内科クリニック 院長	
結核医療に関し専門的知識を有する医師	藤井 笑子	高松市立みんなの病院診療部長	
学校医	合田 吉徳	屋島総合病院 常勤顧問	
学校医	住谷 朋人		
関係医師会から推薦された医師	眞鍋 正博	キッズメディカルまなべ院長	
市保健所長	藤川 愛	高松市保健所長	
学校長の代表（香川県中学校教育研究会 高松支部養護部会代表）	佐々木 佳代	高松市立太田中学校校長	
学校長の代表（香川県小学校教育研究会 高松支部学校保健部会代表）	織田 光博	高松市立下笠居小学校校長	新規
養護教諭の代表（香川県中学校教育研究会 高松支部養護部会代表）	寺上 裕美	高松市立高松第一中学校養護教諭	
養護教諭の代表（香川県小学校教育研究会 高松支部養護部会代表）	武下 香織	高松市立屋島小学校養護教諭	

議案第 1 3 号

高松市生涯学習センター等運営協議会 委員の委嘱について

教育局生涯学習センター

1 委員の委嘱について

(提案理由)

任期満了に伴い、高松市生涯学習センター条例第9条第3項の規定により、高松市生涯学習センター等運営協議会委員を次のとおり委嘱するものです。

(1) 委嘱年月日

令和8年5月1日

(2) 任期

令和8年5月1日から令和10年4月30日まで

(3) 委員

選出区分	氏名	役職等	備考
学校教育機関	西岡 達哉	高松短期大学ビジネスデザイン学科 准教授	
	若井 健司	徳島文理大学短期大学部音楽科 教授	新任
	久下 実	徳島文理大学文学部文化財学科 教授	新任
社会教育関係団体	辻 佳宏	高松市PTA連絡協議会 会長	
	香西 秀美	高松市女性団体連絡協議会理事	
学識経験者	酒井 博英	NHK高松放送局コンテンツセンター長	
	井上 和枝	元小学校校長	
	藤井 真由美	高松片原町東部商店街振興組合	
その他	高濱 有佐	公募	
	尾田 美和子	公募	新任

参考 生涯学習センター等運営協議会委員

議案第13号

令和8年3月31日現在

選出区分	氏名	役職等	備考
学校教育機関	田中 健二	香川大学名誉教授	
	西岡 達哉	高松短期大学ビジネスデザイン学科講師	
社会教育関係団体	辻 佳宏	高松市PTA連絡協議会会長	
	香西 秀美	高松市女性団体連絡協議会理事	
学識経験者	藤井 雄三	元高松短期大学秘書科准教授	
	酒井 博英	NHK高松放送局コンテンツセンター長	
	井上 和枝	元小学校校長	
	藤井 真由美	高松片原町東部商店街振興組合	
その他	坂上 貴子	公募	
	高濱 有佐	公募	

報告事項 1

令和7年度学校医等の感謝状贈呈について

教育局保健体育課

1 感謝状贈呈の概要

学校医等感謝状贈呈審査基準内規に基づき、学校医等として多年にわたり学校保健活動を推進してきた方に対し、その功績をたたえ教育委員会から感謝状を贈呈するもの。

(参考) 学校医等感謝状贈呈審査基準内規

1 趣旨

この内規は、多年にわたり本市の学校保健活動を推進してきた学校医、学校歯科医及び学校薬剤師（以下「学校医等」という。）に高松市教育委員会（以下「教育委員会」という。）感謝状を贈呈するための審査基準を定めるものとする。

2 審査基準

前項の規定により感謝状を贈呈するものは、次の各号のいずれかに該当するものとする。

- (1) 学校医等として、20年以上在職し退職した者
- (2) 学校医等として、10年以上在職し死亡した者
- (3) 前各号に掲げるもののほか、教育委員会が適当と認める者

3 選考委員会

教育長、教育局長、教育局次長及び学校教育関係課長によって委員会を構成し選考する。

4 時期

感謝状の贈呈は、原則として毎年3月に行う。

附 則

この内規は、昭和56年3月26日から施行し、昭和55年3月26日から適用する。

附 則

この内規は、平成29年4月1日から施行する。

2 候補者

1 名（学校歯科医）

氏名	職名	学校名及び期間			学校医歴	備考
豊島 雄一	学校歯科医	中央小学校	S49.4.1～R8.3.31	52年間	52年	勇退

報告事項 2

令和 8 年度幼稚園、小・中学校及び 高松一高の園・学校訪問について

教育局学校教育課・健康福祉局こども保育教育課

令和 8 年度 幼稚園・学校訪問実施要項

高松市教育委員会

1 目 的

「第 3 期高松市教育振興基本計画」に基づき、幼稚園・学校の物的管理・人的管理及び運営管理の実情を把握するとともに、令和 7 年度の学校評価に基づいた園・学校課題の解決に向けた取組を支援する。

2 本年度の重点（小・中・一高）

～「誰一人取り残さず一人ひとりが輝く教育」

「高松で育ち、高松で学び、高松で暮らして良かったと思える教育」～

① 生きる力を育む学校教育の充実

確かな学力の育成、外国語教育、ICTを活用した教育、道徳教育、人権教育、読書活動、体力づくりと健康教育、食育
キャリア教育、主権者教育、シビックプライドを育む教育の推進 等

② 安全・安心で魅力ある教育環境の充実

学校教育施設、ICT環境の整備・充実、いじめや暴力の未然防止、不登校児童生徒への支援、特別支援教育、防災教
育、幼小中の連携・接続、学校における働き方改革の推進、教員の資質・能力の向上 等

③ 家庭・地域とともに育む教育力の向上

地域とともにある学校づくりの推進、情報モラル教育の推進、家庭・地域の教育力の向上

3 実施期間 小・中・一高 令和8年5月～11月

4 訪問予定日 (小・中・一高)

月	日	曜	訪問校		
			小学校(番号01～31)	小学校(番号32～49)	中学校
5	18	月		川東小学校	龍雲中学校
	20	水	花園小学校		玉藻中学校
	25	月	前田小学校	古高松南小学校	
	27	水	太田小学校	浅野小学校	
	29	金	円座小学校		一宮中学校
6	5	金	男木小学校		男木中学校
	8	月	川岡小学校		香東中学校
	10	水	下笠居小学校		下笠居中学校
	22	月	檀紙小学校		香川第一中学校
	24	水	多肥小学校		
	25	木	亀阜小学校	木太南小学校	
7	6	月			勝賀中学校
	8	水	古高松小学校		古高松中学校
	9	木	十河小学校		太田中学校
	10	金	高松第一小学校		高松第一中学校

9	4	金	屋島小学校	屋島西小学校	
	7	月	東植田小学校	香南小学校	香南中学校
	10	木	新番丁小学校	牟礼南小学校	
	11	金	三溪小学校		山田中学校
	30	水	鬼無小学校	国分寺北部小学校	
10	1	木	高松第一高等学校		
	2	金	香西小学校		みねやま分校(小・中)
	5	月	林小学校		牟礼中学校
	14	水	一宮小学校		桜町中学校
	15	木			協和中学校
	16	金		庵治小学校	庵治中学校
	19	月	川添小学校	牟礼北小学校	
	21	水	植田小学校	塩江小学校	塩江中学校
	26	月		屋島東小学校	屋島中学校
	27	火	弦打小学校		五色台分校(小・中)
	30	金	川島小学校	大野小学校	
11	2	月	栗林小学校	木太北部小学校	
	5	木			紫雲中学校
	6	金	仏生山小学校	太田南小学校	
	11	水	鶴尾小学校		木太中学校
	13	金	中央小学校		
	16	月		国分寺南部小学校	国分寺中学校
	24	火	木太小学校	牟礼小学校	

5 本年度の重点（幼稚園・こども園）

～「誰一人取り残さず一人ひとりが輝く教育」
「高松で育ち、高松で学び、高松で暮らして良かったと思える教育」～

- ① 生きる力を育む学校教育の充実（幼稚園・こども園）
 - 就学前教育の充実
 - ・「高松っ子いきいきプラン改訂版」に基づく、乳幼児の発達や興味・関心等を踏まえた、一人ひとりの育ちを見通した質の高い教育・保育の提供
 - 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進
 - シビックプライドを育む教育の推進
- ② 安全・安心で魅力ある教育環境の充実（幼稚園・こども園）
 - 学校教育施設・ICT環境の整備・充実
 - 特別支援教育・保こ幼小の連携・接続
 - 教員の資質・能力の向上、園における働き方改革の推進
 - 子どもの安全対策・防災教育の推進 等
- ③ 家庭・地域とともに育む教育力の向上（幼稚園・こども園）
 - 家庭・地域の教育力の向上
 - 地域とともにある園づくりの推進

6 実施期間 令和8年5月～7月

7 訪問予定日

【幼稚園】

【こども園】

月	日	曜	園名	月	日	曜	園名	月	日	曜	園名			
5	7	木	木太	5	22	金	前田	6	26	金	浅野			
	8	金	国分寺北部		25	月	円座		29	月	川東			
	12	火	木太北部		26	火	鬼無		30	火	香南			
	13	水	三溪		27	水	弦打	1	水	塩江				
	14	木	川岡		28	木	檀紙	6	月	屋島				
	18	月	多肥	29	金	大野	7	火	川島					
	19	火	一宮	6	1	月	川添	9	木	林				
	20	水	香西		4	木	国分寺南部	10	金	庵治				
	21	木	栗山					13	月	下笠居				
												15	水	はら
												16	木	田井

報告事項 3

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の 令和7年度研究成果の報告について

教育局高松第一高等学校

I SSHとは

SSH

スーパーサイエンスハイスクール

科学技術・理科・数学教育に重点を置いた研究開発を通して、将来社会を牽引する科学技術人材の育成を図ることを目的としている。

- 1期5年
(本校は17年目、**Ⅳ期2年目**)
- 年間 600万円～1,200万円の予算 (本校は750万円)
- 理科・数学等に重点を置いた**カリキュラム開発**を行う。
- **課題研究・探究的な学習**を重視する。
- 大学・研究機関・企業等と**連携**する

I SSHとは

四国のSSH指定校

報告事項3

令和8年度：7校（11校） / 全国207校（229校）中

県	指定校数
香川	2校 高松第一・観音寺第一
徳島	2校（+認定枠2校）
高知	1校（+認定枠1校）
愛媛	2校（+認定枠1校）



本校の研究開発課題

報告事項 3

これまでの実践

I 期目 … 教育課程、教材、授業展開や指導法の研究開発。

II 期目 … 自ら考え行動できる創造的人材を育成する持続可能なプログラム実践

III 期目 … 知への好奇心、探究心を身に付けた創造的人材を育成する持続可能なプログラム実践



第Ⅳ期 SSH研究開発課題

「**知的好奇心・探究心を源に、共創的科学的力を発揮して新たな価値を創造し続ける人材の育成**」

研究開発の概要（Ⅳ期）

I カリキュラム・マネジメントの視点で視野の広がりを生む**授業改善**の実践とその評価

II 共創的科学的力を発揮し多様な価値を創造する場としての

専門深化型課題研究・教科継走型課題研究の実践

III **外部連携**を活用した視座の高まりによる地球市民育成のための
持続可能なプログラムの開発・実践

IV 地域における科学技術人材の裾野を広げる**サイエンスネットワークの形成**



高松第一高等学校

- I **カリキュラム・マネジメントの視点で視野の広がりを生む
授業改善の実践とその評価**
- II 共創的科学的力を発揮し多様な価値を創造する場としての
専門深化型課題研究・教科継走型課題研究の実践
- III 外部連携を活用した視座の高まりによる
地球市民育成のための持続可能なプログラムの開発・実践
- IV 地域における科学技術人材の裾野を広げる
サイエンスネットワークの形成

実施内容

- ① 全教科、研究授業の実施
- ② 全教科、チームによる、生徒の変容を捉える
パフォーマンス課題の開発・実践・検証
- ③ 全教科、チームによるA Lの実践・検証
- ④ 教科横断型A Lのプログラム開発・実践・検証
- ⑤ カリキュラムマップ及び3年間の到達目標
(長期的ルーブリック)の検証

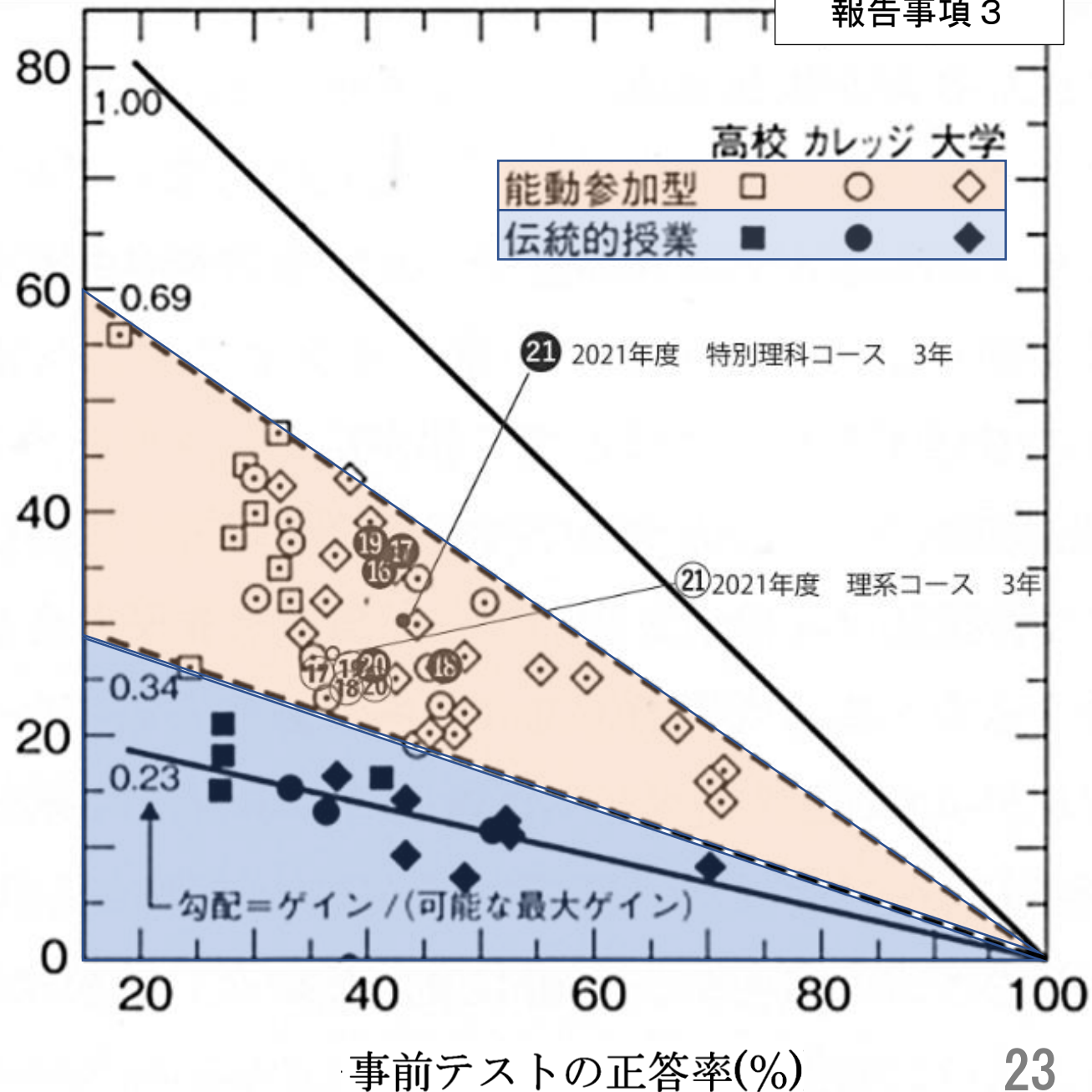
FCIについて

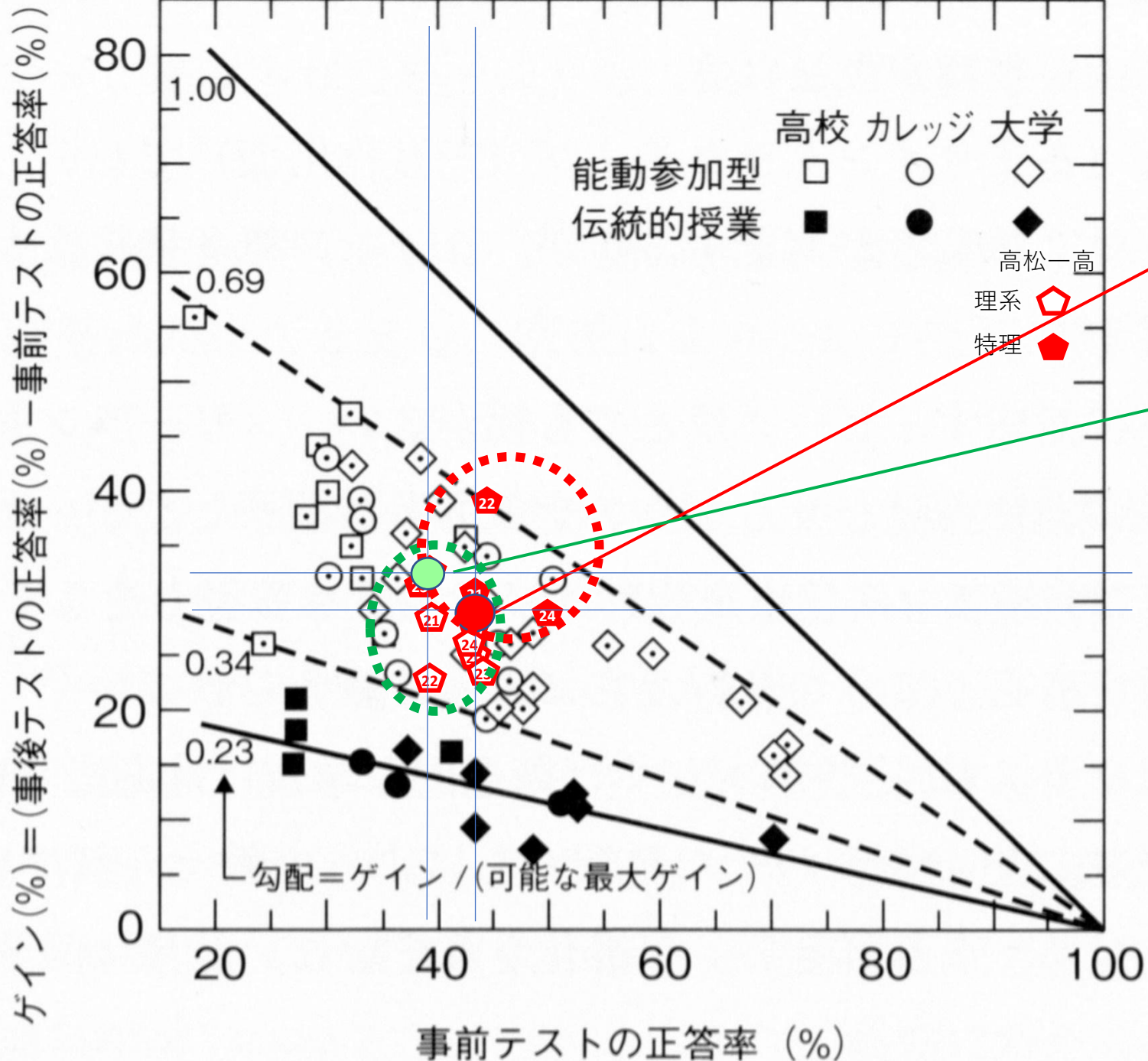
- Force Concept Inventory
力と運動に関する「概念理解」を測るテスト
- 同じ問題を用いて学習前、学習後にテストを行う。

ゲイン (縦軸値)	Post - Pre (3年秋/冬) - (2年春)
規格化ゲイン	不正解だったものが学習により どれだけ正解になったのかを表す指標

$$(\text{規格化ゲイン}) = \frac{(\text{ポストテストのクラス正答率}) - (\text{プレテストのクラス正答率})}{1 - (\text{プレテストのクラス正答率})}$$

ゲイン(%)=(事後テストの正答率(%)-事前テストの正答率(%))





コース		年度	第Ⅳ期
		2025年 (R7)	
特別理科 コース	プレテスト正答率	40.9%	
	ポストテスト正答率	69.4%	
	規格化ゲイン g	0.48	
理系 コース	プレテスト正答率	36.6%	
	ポストテスト正答率	68.9%	
	規格化ゲイン g	0.51	

ゲイン (縦軸値)	Post - Pre
特別理科 ●	69.4 - 40.9 = 28.5
理系 ●	68.9 - 36.6 = 32.3

④教科横断型 A L のプログラム開発・実践・検証

目的：「実社会での問題発見・解決に生かしていくため、教科の枠を越えて関連することを学ばせたり、より深く学ばせたりする。」

今年度の実践報告 その1

「世界史」×「英語」

- | | |
|------|--|
| 単元名 | 世界史上の出来事 |
| 単元目標 | 世界史上の出来事の背景や意義を理解し、要点をまとめて英語で他者に伝えることができる |
| 実践内容 | <ol style="list-style-type: none">①歴史的出来事の要点を日本語で確認②①を英語で表現③プレゼンをする（ポスターとして） |

④教科横断型 A L のプログラム開発・実践・検証

目的：「実社会での問題発見・解決に生かしていくため、教科の枠を越えて関連することを学ばせたり、より深く学ばせたりする。」

今年度の実践報告 その2

「情報」×「国語」

単元名	情報の探索と選択
単元目標	言葉の発信が他者や社会に与える影響を理解し、適切な情報発信の仕方を学ぶ
実践内容	① SNS 投稿での炎上の原因を考察する ②受けとられ方に留意した投稿文を作成する

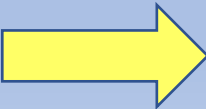
事後アンケートより

世界史×英語

世界史の用語を英語で表現するためには、難解な英単語を身近な言葉に表現し直すことと、世界史上の出来事を詳しく正しく理解することが重要であり、両教科の実力UPを図れる授業だった。

情報×国語

生徒にとって身近なテーマで興味を持って取り組んでいた。文字のみでの表現を求められるSNSでは、自分の意図とは異なる受け取られ方をするときがあると理解し、自分の日頃の言葉選びを見直す契機にもなった。

 各教科の知識やスキルを活かしながら課題に取り組むことができ、教科横断型授業の良さを出せた。



高松第一高等学校

- I カリキュラム・マネジメントの視点で視野の広がりを生む
授業改善の実践とその評価
- II 共創的科学力を発揮し多様な価値を創造する場としての
専門深化型課題研究・教科継走型課題研究の実践
- III 外部連携を活用した視座の高まりによる
地球市民育成のための持続可能なプログラムの開発・実践
- IV 地域における科学技術人材の裾野を広げる
サイエンスネットワークの形成



特別理科コース

「SR I・AS I・II」における

専門深化型課題研究

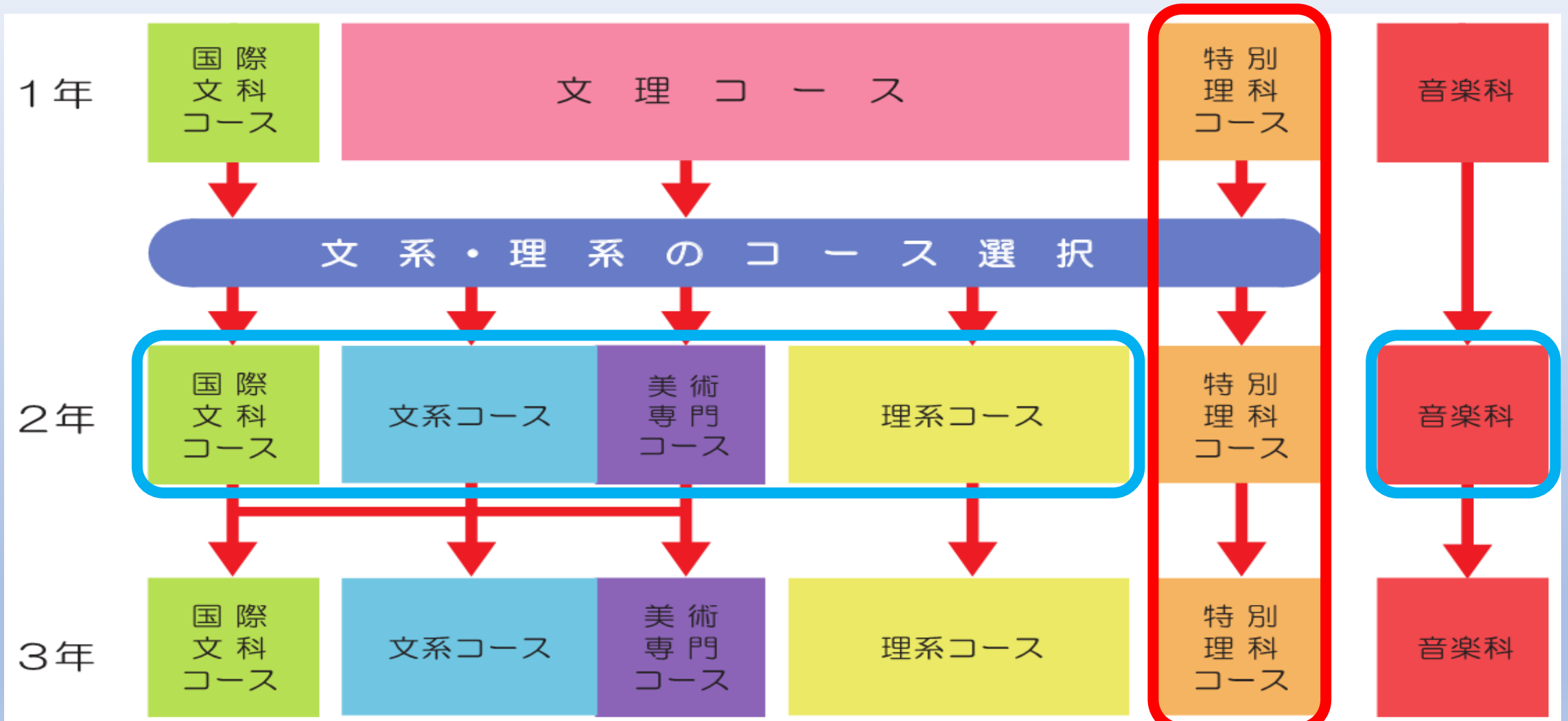
理系コース・国際文科コース・文系コース・
美専コース、音楽科

「未来への学び」における

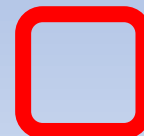
教科継走型課題研究

Ⅱ 高松一高のSSH

2 実施学科・コース



特別理科コース以外の課題研究
・学校設定科目「未来への学び」



特別理科コースの課題研究



IV期の課題研究「Science Research」

1年生			2年生			3年生		
1学期	2学	3学	1学	2学	3学	1学期	2学期	
S			調査・研究			SRIII		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 博物館連携 ・ 県高校生科学研究発表会を聞く ・ 3年生課題研究発表会を聞く ・ 実験の基本操作 考える科学 	<ul style="list-style-type: none"> ① 課題研究テーマ検討・グループ分け ② 課題研究テーマ決定・研究開始 ③ 「実験ノートの書き方」講座 	<ul style="list-style-type: none"> ④ 第1回中間発表会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 四国地区の発表会を聞く ⑤ 第2回中間発表会 ・ 3年生主課題研究成果発表会を聞く ・ 県高校生科学研究発表会を聞く ・ 関東合宿（研究所等訪問） 	<ul style="list-style-type: none"> ⑥ 第3回中間発表会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学会等発表 ・ 科学英語向上プログラム ⑦ 第4回中間発表会（ポスター） ・ イギリス海外研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 四国地区の発表会に出場する ⑧ 課題研究成果発表会 ・ 県高校生科学研究発表会 ・ 学会等発表 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 論文提出 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学教授等による講座（全10回） ・ 英語による科学の授業（全2回） 			<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学での実験、実習（全2回） 					

AS II (Advanced Science II) 3年間の受賞

		科学研究発表会	香川県高校生 生徒研究発表会	SSH(神戸) 生徒研究発表会	自然科学部門	全国総文祭	フアーム	サイエンス コンベンション大会	かはくプレゼン テーション大会	四国地区SSH 生徒研究発表会	ジュニアセセッション	マス・フェスタ	日本学生科学賞	高校生・高専生 科学技術チャレンジ	「科学の芽」賞	坊ちゃん科学賞	全国学芸サイエンス コンクール	水大賞	生活創造コンクール
R7	テーマ数	受賞	6				1	3					3		1	4			
	10	参加	6	1	9		1	3	10			1	3	1	1	4			2
R6	テーマ数	受賞	6				1	3					1			5			
	13	参加	13	1	1		1	3	13	6	2	2	3	2	2	5	1	1	
R5	テーマ数	受賞	6				1	4					2		1	5			
	11	参加	10	1			1	4	11	5	1	4			1	5	1		



未来への学び 概要

目的

様々な教科・科目による教科継走型の課題研究を通じて
探究の手法を学び、物事を多面的に捉える視点を持たせる。

➡ 課題解決能力の育成

特徴

- ① 少人数チーム×混合グループ編成
- ② 理系講座 2 時間× 4 週で 1 講座
文系音楽講座 2 時間× 5 週で 1 講座
のローテーション
- ③ 「クロス講座」と「深める時間」





未来への学び 特徴②

2時間×4週間 / 5週間で1講座のローテーション

	4月	4～11月	12月	1・2月	2月13・20日
文系クラス・音楽科	ガイダンス	文系音楽講座	理系クロス講座	深める講座	最終発表 振り返り
理系クラス		理系講座	文音クロス講座	深める講座	

グループ		第1クール	第2クール	第3クール	第4クール
文音	A	国語	地歴公民	英語	
	B	体育・音楽	国語	地歴公民	
	C	英語	体育・音楽	国語	
	D	地歴公民	英語	体育・音楽	
理系	A	物理	化学	生物・地学	数学
	B	数学	物理	化学	生物・地学
	C	生物・地学	数学	物理	化学
	D	化学	生物・地学	数学	物理



未来への学び 特徴③

クロス講座

文系・音楽科クラスが理系講座を、理系クラスが文系音楽講座を受講する。
異なるコースにおける課題研究の手法を学ぶことで、考え方に幅を持たせる。

深める講座

もう一度受けたい講座を選び、一度目にあがった改善点を踏まえながら、より高度な課題研究に取り組む。

	4月	4～11月	12月	1・2月	2月・3月
文系・音楽科生徒	ガイダンス	文系音楽講座	理系クロス講座	深める講座	クラス発表
理系生徒		理系講座	文音クロス講座	深める講座	学年発表

最終発表

別々のグループに分かれていた班がそれぞれのクラスに戻り、深める講座の成果を発表する。また、クラス発表会で評価が1番高い班がクラス代表として、学年全体に発表する。



高松第一高等学校

- I カリキュラム・マネジメントの視点で視野の広がりを生む
授業改善の実践とその評価
- II 共創的科学的力を発揮し多様な価値を創造する場としての
専門深化型課題研究・教科継走型課題研究の実践
- III 外部連携を活用した視座の高まりによる
地球市民育成のための持続可能なプログラムの開発・実践
- IV 地域における科学技術人材の裾野を広げる
サイエンスネットワークの形成

SSH総合科学講演会における連携

第1回 (9月22日)

保護者・報道機関 参加!

講師：小木曾 哲 先生

(京都大学 人間・環境学研究科 教授)

長谷川 修一 先生

(香川大学 四国危機管理教育・研究
・地域連携推進機構 特任教授)

越前屋 俵太 先生

(ディレクター / 大学講師
/ ACADEMIC VISION LLC代表)

演題：ACADEMIC LIVE！ in 高松第一高校

「おむすび山の謎を探れ！」



SSH総合科学講演会における連携

保護者・報道機関 参加！

座談会は満員！

第2回 (12月4日)

講師：小林 晋平 先生

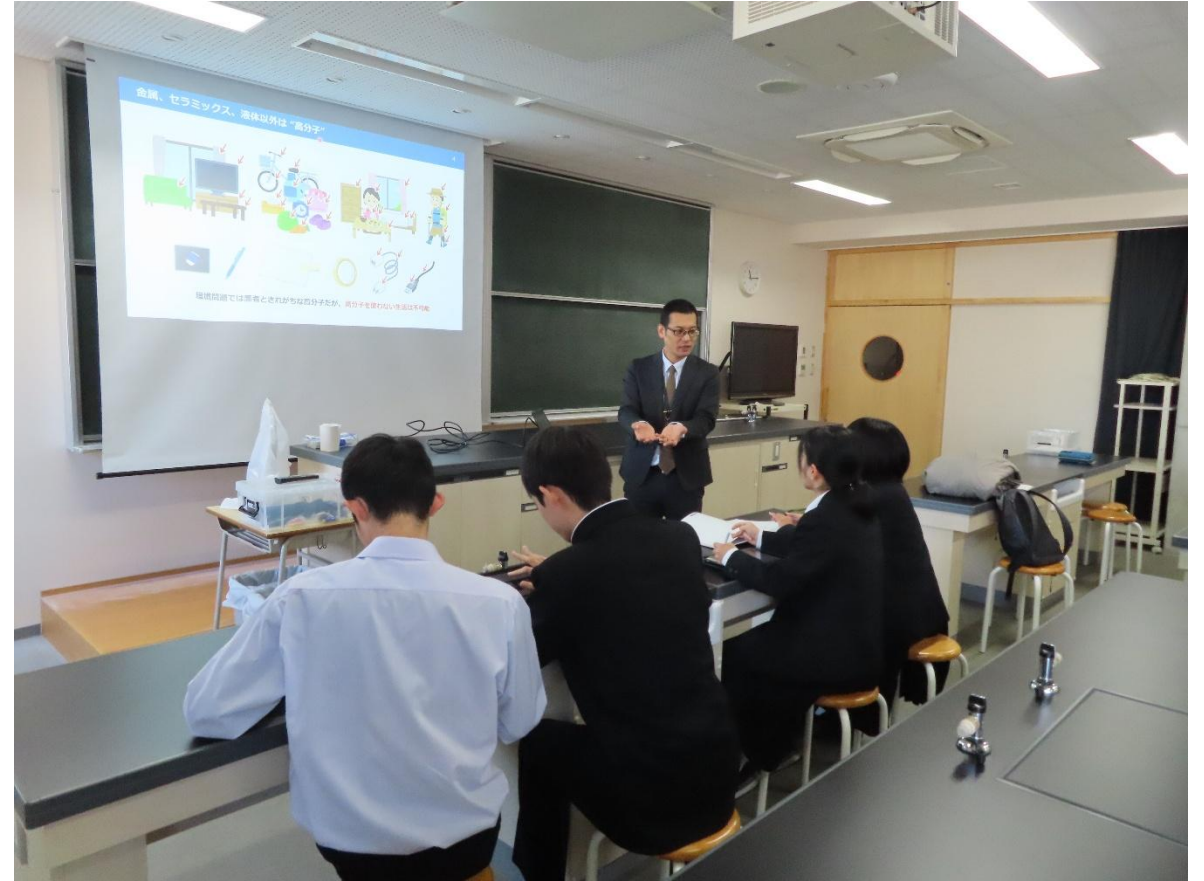
(東京学芸大学 教育学部 自然科学系
基礎科学講座 物理科学分野 教授)

演題：「宇宙はどこまでわかってきたか

～ブラックホールの中・宇宙の始まり・時空と次元～」



SR I (Science Research I) における連携



▲ 香川大学教育学部・創造工学部の先生方に研究相談



高松第一高等学校

- I カリキュラム・マネジメントの視点で視野の広がりを生む
授業改善の実践とその評価
- II 共創的科学的力を発揮し多様な価値を創造する場としての
専門深化型課題研究・教科継走型課題研究の実践
- III 外部連携を活用した視座の高まりによる
地球市民育成のための持続可能なプログラムの開発・実践
- IV 地域における科学技術人材の裾野を広げる
サイエンスネットワークの形成

目的：地域の恒久的科学技術人材の育成

【科学体験教室】

- 文化祭でのサイエンス教室
- 外部科学イベント出展
- 小学生実験教室



【中学生研究支援事業】

高松市科学体験発表会での

- 本校生による課題研究発表
- 本校教員による講評



【ロールモデル活用事業】

卒業生、地元出身者による

- 出張講義（講師・TA）
- 交流会の開催
- 課題研究メンター



【小中学校教員連携事業】

科学的な取組への興味・関心を高める機会として本事業を活用

- SSH総合科学講演会
- 課題研究成果報告会

